



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第14号

2021年
1月20日

盛り上がった尾瀬合宿

群馬支部恒例となった秋の尾瀬合宿。天気都合で10日(土)の予定だった山行は順延。10日の夕方にはロッジ長蔵に総勢17人の会員が集い、明日の山行を控えての前夜祭で盛り上がった。今年はコロナ禍のため自由に個人山行もできず、また例会などでも会員同士が直接顔を合わせることができないでいた。そんな中この合宿の開催も危ぶまれていたが、無事に開催できて本当によかった。例年通り快く受け入れていただいたロッジ長蔵の平野顧問をはじめスタッフの皆様心から感謝します。

わたしが少し遅れて到着すると、すでに盛り上がっている皆さんから大歓迎を受けた。今年は特に明るい話題が少なく、わたし個人としても8月に落石事故に遭い入院騒ぎで皆さんに心配をかけてしまった。無事に開催できたこと、そして自分が参加できたことに、ほっとしたと同時に嬉しい気持ちでいっぱいになった。誰もがこのような懇親会は、しばらくぶりであったためか、参加者の笑顔が今まで以上に輝いて見えた。コロナ禍であったが、行った山、これから行きたい



三密対策をとっての懇親会。入館時は体温測定も

山、様々な個人山行の情報交換が活発に交わされ、とてもよい雰囲気の中で楽しい時間が過ぎていった。明日、特に上州武尊班は早朝出発のためそれぞれが部屋に戻っていった。気がつけば、いつものことだがたくさんの瓶が空いていた。

田中 規王

山、様々な個人山行の情報交換が活発に交わされ、とてもよい雰囲気の中で楽しい時間が過ぎていった。明日、特に上州武尊班は早朝出発のためそれぞれが部屋に戻っていった。気がつけば、いつものことだがたくさんの瓶が空いていた。

11日(日)、山行を順延したことにより雨は免れたが曇天模様。お陰様でわたしは、退院から1カ月足らずでなんとか歩けるようになり、怪我からの復帰の第一歩として、日光白根山自然散策路を前田さん、萩原哲さん、宇佐美さんとともに楽しむことができた(約3時間、4.4km)。途中までは、山頂を目指す班と一緒に進み、七色平避難小屋の分岐でお互いの無事を念じて二手に分かれた。わたしは、山頂へは何度か登っているが自然散策路「史跡散策コース」を一周するのは初めてであった。六地藏や大日如来など、信仰登山としての石仏に少し興味がわき、かえってよい機会となった。散策コースとはいえ、今の自分には十分すぎる本格的なトレッキングコースであった。ロープウェイからの紅葉狩り、遠くの景色は見えなかったが、澄んだ空気、苔やキノコなど、手に届く距離にある大自然が我々を迎えてくれた。なぜか、目に映るもの全てが普段以上に神秘的に見えた。また一つ、心に刻まれた尾瀬合宿となった。



よく整備された自然散策路

をとうに過ぎたのに、今でも年に40回くらいは滑りに行っています。まあ、これも山岳会の一部かなと自分で納得しています。今年は12月初めの週末に少ない雪の中、かぐらで初滑りをしたら翌週は少雪で滑れず、暖冬で今年も駄目かと思っていたら次の週末は大雪で関越道は立ち往生、ゲレンデも整備が追いつかず開場延期が相次ぐなど何だか荒れ模様のシーズンになりそうです。それでも年相応に天気の良い日だけを狙って、リュックにフランスパンと赤ワインを詰めて、年40回を目指して山を下ろうと思っています。(小島 秀薫)

リレーエッセイ⑭「山はもっぱら下り専門」

群馬支部の会員になって、早2年以上が過ぎました。幽霊会員で行事にも参加せず、申し訳なく思っています。何せ、会を紹介頂いた、種々先輩の方とのお話で「いやあ、高所恐怖症で、高いところに行くと尻がむずむずするんです」「そう言う人は山に登ってはいけません」などという会話をしていたものですから、山とはもっぱら下り専門で付き合っています。

もっとも下り専門なのは、もう20年以上前から、苗場やかぐらでスノーボードを楽しんでいます。還暦

をとうに過ぎたのに、今でも年に40回くらいは滑りに行っています。まあ、これも山岳会の一部かなと自分で納得しています。

今年は12月初めの週末に少ない雪の中、かぐらで初滑りをしたら翌週は少雪で滑れず、暖冬で今年も駄目かと思っていたら次の週末は大雪で関越道は立ち往生、ゲレンデも整備が追いつかず開場延期が相次ぐなど何だか荒れ模様のシーズンになりそうです。

それでも年相応に天気の良い日だけを狙って、リュックにフランスパンと赤ワインを詰めて、年40回を目指して山を下ろうと思っています。(小島 秀薫)

尾瀬合宿 上州武尊山

令和2年10月11日(日)、上州武尊山行が実施されました。川場谷キャンプ場―前武尊―家の串山―中ノ岳―武尊山(山頂)の往復です。尾瀬合宿翌日の早朝6時30分、前日の晩餐からの勢いもそのまま、気持ち良い?悪い?スタートです。

少し雨が心配されましたが、ほとんど影響はありませんでした。30分ほど緩い傾斜を歩くと不動岳方面との分岐となり、そこから川場尾根に向かって300m一気に標高を稼ぎます。尾根からは前武尊に向かって更に標高を稼ぎますが、本日の全行程の標高差920mの8割ほどは、前武尊までで登り上げてしまいます。前武尊には日本武尊の像が建立され、遠方を見つめています。

そこからは傾斜も落ち着き、いくつかピークを巻きながら尾根を進みます。家の串山に向かう稜線上では、一瞬ガスが抜け、眼下に緑、黄、赤の混ざった素晴らしい秋の景色を堪能できました。中ノ岳直下の分岐からは、池塘を通り、山頂直前の登りを進むと、2体目の日本武尊の像があります。そこからさらに5分で山頂へ到着です。



山頂での記念撮影。全員元気いっぱい

山頂では昼食休憩も入れて30分以上滞在しましたが、ガスは晴れず、周囲の景色は見えませんでした。山頂で集合写真を撮り、下山となりました。

霧の中に浮かぶ稜線



参加した皆さんは登りも下りも会話を弾ませ、コメツガとトウヒの違いを学んだり、コシアブラなどを見つけながら歩いたり、それぞれが、楽しんでいたようでした。大変お疲れさまでした。(小池 千秋)

尾瀬合宿 日光白根山

前夜、ロッジ長蔵での久々の懇親会に酔った翌朝。尾瀬合宿2日目に日光白根山へ向かった。本来は前

日に登る予定だったが、台風で順延しての実施だった。

今回の計画は丸沼高原のゴンドラで標高2000mまで一気に登り、山頂を往復しようというもの。途中、七色平分岐までは山ろくトレッキングのメンバーとも一緒に、昨晚の余韻にひたるように、しっとりとした森の道を歩く。台風一過を期待したのだが、台風は本州南で迷走状態に入り、雨こそ降らないものの霧は最後まで晴れなかった。

今でこそ、百名山ブームに、ゴンドラを核とした丸沼高原の観光投資のおかげで、登る人も飛躍的に増えてきたが、少なくとも群馬県人にはその良さが意外と理解されていないのが日光白根山。なんといってもその標高はもっと注目されている。2577.1mは北アルプスの唐松岳や爺ヶ岳とほぼ肩を並べるクラス。それゆえに山頂からは群馬の山はもちろん、東北南部の山から尾瀬、奥日光、足尾、武尊そして上信越の山並みがグルッと見渡せる。そして山腹の樹木の趣が良い。コメツガやシラビソにダケカンバなどが混じる。シカの食害などで高山植物はかなり減ったが、有名なシラネアオイやシラネニンジン、シラネアザミ、ニッコウザサなど、土地の名を冠した植物も多い。標高2400mくらいから上は一転して高山帯となり、火山礫や溶岩の急斜面となり、トウヤクリンドウやツガザクラなども見られる。

七色平分岐から、4人で奥白根山西斜面を南に向かって秋色濃い森の中を登り、森林限界の休み石の屈曲部で北に向きを変えるルートで頂上を目指した。今一つの天気だったが、山頂は大混雑。やむなく南峰までとした。山頂では標高が高いただけあって、雲の上



山頂でのひと時。ぼんやりと北峰が見える

にうっすらと太陽ものぞいていたが、下山を始めるるとまた深い霧の中に戻った。あいにくの天気で期待した大展望も錦秋の山肌の眺めも得られなかったが、森の中の色づいた木々の点景に気づかされた山行だった。(根井 康雄)

晴れの日逍遥会「廃線ウォーク」

久保田重夫

時間の流れが止まったような、暗闇のトンネル、さびついた鉄路―。碓氷線（通称）の立ち入り禁止区域を特別に許可された「廃線ウォーク」。このイベントに10月29日、参加した。中山、寺内、武尾、久保田、宮川（政）、萩原（哲）の6会員と会員外の2人が未知の世界を体感した。

歩いた廃線コースは、24年前に長野新幹線の開業に伴って運行が止まった信越本線新線の軽井沢―横川間の約11km。碓氷線は横川から碓氷峠を越える急勾配の区間として知られ、標高差は550mある。旧線の一部は現在、アプトの道として整備され、「めがね橋」などが人気だ。

当日は好天。平日だったが我々8人を含め男女27人が軽井沢駅に集合。ガイド役の安中市観光機構の職員が先導して午前9時半、横川を目指して最初のトンネル（11号）に入った。多くがトンネルのため、ヘルメットとヘッドランプを装着して下り始める。途端に体が冷気に包まれる。

わずかな明かりを頼りに、足元に気をつけなが

ら線路を進む。連絡用の電話や信号機、県境の標識、待避所などがそのまま残っており、運行当時の面影を感じさせる。途中、山側の旧国道18号から捨てられた大量の粗大ゴミが、廃線近くまで帯状になって落ちていた。この光景に唖然とした。ほぼ中間点の旧熊ノ平駅で、地元名物の「峠の釜めし」を味わった。この付近の風景を詠んだといわれているのが唱歌「紅葉」（高野辰之作詞）。休憩中、彩り豊かな周りを愛でながら、秋の風情を堪能した。



感動の廃線ウォーク

近くのトンネル内で、当時録音された電気機関車の走行音や最終運行の様子、横川駅の売り子の声などの映像が投影された。歴史ある碓氷線がよみがえった。歩き進むと、眼下に「裏めがね橋」がちらっと見える鉄橋に差ししかかった。ビューポイントだけに多くの人がカメラを向けた。

横川駅には午後3時半、着いた。急勾配を走った当時の鉄道技術の高さにいたく感心した。

自然保護全国集会に参加して

木暮 幸弘

2020年度の自然保護全国集会は10月24、25の両日、奈良県吉野町で開かれた。当初の予定は7月4、5日だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、先送りしての開催となった。

今回参加した支部は7つ。ホストの関西支部からは17人が参加していたが、それを除くと本部役員らを含めて19人という少し寂しい集会となった。ちなみに最も遠距離からの参加支部は群馬支部だった。遠いところよく来てくれたと歓迎されたのは言うまでもない。

さて、今回の集会のテーマは、「吉野に学ぶ持続可能な自然との共生」。講演会では、吉野町長の中井章太氏が「吉野林業と山林管理について」と題して講演。吉野の山守7代目で中神木材代表でもある同町長は、森林所有者に代わって森林の管理・保護をする「山守制度」について解説。300年続く吉野林業特有の山林管理制度が、吉野の山をここまで守り育ててきたことなどを語った。このほか、吉野のサクラを守っている団体「保勝会」の福井良盟副理事長と金峯山寺奥駈経奉行の田中岳良氏による講演もあり、興味深く聴くことができた。

そのあと行われた支部の活動報告では、いずれの支部も今年度はコロナ禍で苦慮。企画していた事業を中止したり、思うように活動できなかったことなどが報告された。群馬支部は、7月11日に計画した湯ノ丸高原でのミヤマシロチョウ観察会について報告。雨で中止となったものの、当日は関係者だけで観察会を実施。羽化したばかりのミヤマシロチョウやサナギも観察でき、その後の役員会、例会で来年に再度企画することで承認された旨発表した。

2日目のフィールドスタディーは、2班に分かれて活動。奥千本から上千本を歩くコースを選んで、



吉野の山を5時間ほど楽しんできた。そこで気づいたこと。吉野山はサクラで有名だが、実は人工林が町の8割を占める森林の町。コースの多くがスギ林で、紅葉を愛でながらトレッキングを楽しむという目論見は見事裏切られた。が、スギを切った後にヤマザクラの苗木を植えるオーナー制度の森が広がっているのを見ることができたり、“おまけ”で金峯山寺の蔵王権現（秘仏）を拝んだりできたので「よし」としたい。

健康登山塾2020 紙上塾の試み

「健康登山塾」も、3年目が終了しました。応募者の推移は下記の表をご覧ください。3年目の2020年度は新型コロナウイルス肺炎の感染拡大の影響で開始時期が大幅に遅れたため合計4回の開催にとどまりましたが、少ない開催回数の中で、感染に注意しながらの登山を含め、密度の濃い講習を行うことができました。

〈2020年度健康登山塾 開催記録〉

○第1回：赤城長七郎山 令和2年9月12日

小地蔵岳との分岐点と長七郎山山頂で血圧測定、着衣調整を行う。小沼南側から道路に上がり、2時間以内に順次小沼駐車場に帰着する。

○第2回：赤城地蔵岳 令和2年10月17日

八丁峠を経て、地蔵岳山頂を約1時間30分で往復する。雨天だが視界は良好で大沼や黒檜山がよく見える。

○第3回：赤城黒檜山・駒ヶ岳 令和2年11月7日



2020年11月7日開催 第3回登山塾（黒檜山山頂手前を登る佐藤光由班）

表 「健康登山塾」の応募者（情報提供者のみ）

募集年度	応募者総数 (男性/女性)	年齢（最高-最低） 平均±標準偏差	生活習慣病等のある方（％）		
			高血圧症	糖尿病	高脂血症
2018年	115 (48/67)	59±8 (42-80)	13%	3%	4%
2019年	84 (35/49)	62±9 (28-82)	19%	5%	8%
2020年	118 (42/76)	62±8 (43-77)	17%	3%	7%
3年間合計	317 (125/192)	61±8 (28-82)	16%	3%	6%
(平成28年国民健康・栄養調査 60-69歳での頻度)			59%	19%	28%



2020年9月19日 紙上登山塾取材（9月29日紙面掲載 前袈裟丸山の山頂北側から後袈裟丸方面）

2班は黒檜山西側の尾根から黒檜山頂一駒ヶ岳経由の周回コースを、残り2班は駒ヶ岳往復コースを体験する。黒檜山の山頂北展望ポイントからは一部の山の山頂に雲がかかるものの、展望良好であった。

○第4回：高崎自然歩道 金井沢碑から根小屋城址 令和2年12月12日

年間を通じて不安なく歩ける近郊坂道コースの紹介と、最終回のまとめの回として前3回のデータと修了証を渡した。

〈2020年度 上毛新聞 紙上登山塾〉

「健康登山塾」の実地開催企画は好評に開催を重ねましたが、問題点として浮かび上がったのは、実地開催では応募していただいた方々のごく一部しか、実地講習会シリーズに参加できないことでした。そこで、2020年4月から上毛新聞の紙面において「紙上健康登山塾」を開催（掲載）しています。実地登山塾と同様の2時間程度で往復できる近郊の登山コースを毎月1カ所ずつ紹介し、自宅でできる筋肉トレーニングや、健康管理上のポイントを解説しています。

日本の国土はごく一部のみ平野で、多くの自治体は山に囲まれています。私たちの群馬県では、学校の校歌に山の名前が登場しないことは稀で、晴れた日に屋外に出れば視野に山が入らないことはまずありません。こうした地の利を生かして、多くの方々が健康増進活動に取り組んでいただけることを期待しています。（齋藤 繁）

事故速報 (2020年8月7日) 白馬大雪渓落石事故について

2020年8月7・8日で白馬岳―唐松岳を栃木支部の前田文彦事務局長と縦走予定だったが、7日大雪渓登山中に落石により負傷。登山を中止し7日のうちに下山した。

6日(木)小谷村前田ヒュッテにて、登山準備・確認を済ませ21:00就寝。7日(金)3:00起床。朝食後、4:00小谷村前田ヒュッテより猿倉駐車場に自家用車2台で移動(1台を八方第5駐車場に置きもう1台で猿倉駐車場へ)。5:00登山開始(曇り)。6:00白馬尻(雨が降り出す)。8:00大雪渓左岸標高2100m付近で、落石1個が右大腿部に当たり転倒(落石は30~40cmくらいの大きさで、さらに大雪渓側の斜面を落下、大雪渓上を転がったところで停止。落石を避けようとストック2本で反射的に反応したが、同時に右大腿部に当たった)。15mほど先を登っていた前田さんが駆けつけ、負傷部位を確認。大腿部の負傷部位は赤く腫れていて、出血等の無いことおよび脚の動き・痛み有無から骨折の可能性は少ないことを確認(動かさなければ痛みは落ち着いた)。

最終的に立ち上がって歩行が可能であることを確認、下山を判断。この時点で前田さんから群馬支部根井事務局長に状況連絡済み。

自力下山中、白馬尻から猿倉に向かう林道上で山岳警備隊に救援を要請し、警備隊の車で猿倉へ、その後救急車で白馬町の新谷クリニックを受診。右大腿部打撲の診断を受け、この日は前田ヒュッテに泊まり、翌朝、事務局長の車で帰宅し、高崎のひかり整形外科を受診した。以降の受診・入院の経緯についてはあらためて総括したい。

反省点として、雪渓上には、様々な大きさの落石が点在していたが、このような落石事故が、まさか自分の身に起こるとは考えもしなかったこと。今回は台風の影響もあり、天気心配されたものの事前準備・体調ともに今まで以上に万全の態勢で臨んでいたため、残念でならない。今後は、体調も含めた事前準備・天気の判断はもちろん、その場の状況から考えられる危険、潜んでいる危険をできる限り予測しながら、安全登山に努めていきたい。

(田中 規王)

只木良也先生の

『ことわざの生態学』から

その1【枝葉末節】

20年以上も前になりますが、名古屋大学名誉教授で森林生態学者の只木良也先生のお話を聞くチャンスがありました。興が乗ると玄人跣の浪花節も出る面白い先生で、わかりやすい生態学のお話のいくつかをご紹介します。なお、データなどは丸善ブックス：只木良也著『ことわざの生態学』から引用しております。

木の葉は光合成の担い手であり、森林生態系のエネルギー源です。葉の大集団は、樹木自体のみならず動物達の生活も賄い、地に落ちては有機物源として地力を支えています。取るに足らない細かいことを言う「枝葉末節」とは、働き手の葉とそれを支える枝に対して非常に失礼な言葉とのこと。森林がどのくらい葉を持っているかを実際に測ったのが次の表です。

森林の平均的な葉量

森林の種類	葉絶対重	葉面積	樹種の例
	トン/ヘクタール	ヘクタール/ヘクタール	
落葉広葉樹林(陽樹)	2.5	3~5	樺類、ヤマナラシ、ハンノキ類
落葉広葉樹林(陰樹)	3.5	4~7	ブナ、ナラ類、ケヤキ
落葉針葉樹林	3.0	4~5	カラマツ、メタセコイア
常緑広葉樹林(1年葉)	3.5	5~6	クスノキ
常緑広葉樹林(多年葉)	8.5	5~9	シイ類、カシ類、ツバキ
タケ林	7.0	6	マダケ、モウソウダケ
常緑針葉樹林			
マツ林	6.5	3~6	アカマツ、クロマツ
ヒノキ林	14.0	5~7	ヒノキ、サワラ
スギ林	19.5	5~7	スギ
その他	17.0	6~10	モミ類、トウヒ類、ツガ類

太陽光は、森林の表面の葉層で受け止め光合成に使われた残りを順次下の葉が使うわけで、一番下の葉は光不足で生きられません。木の生長に伴って、森林の葉は上へ上へと着いていくので下層の葉の生きられない高さも上に行きます。したがって、森林の葉量が樹種によって決まった量を持つことになるのです。

樹林は、青々とした葉で光合成を行い、落葉広葉樹林は秋になると葉緑素を母体の木に返し、人々に紅葉を楽しませた後、全ての葉が散っていきます。その量は乾燥重量で3トン/ヘクタールであり、一見散らないように見えている針葉樹林でも松林の1ヘクタールあたりの葉量は6トンで平均寿命は2年と毎年50%、檜林の1ヘクタールあたりの葉量は14トンで平均寿命は4~5年と毎年20~30%が新生葉と入れ替わる。このように落葉林、常緑林を問わず、新生葉量と落葉量のバランスが取れているとのこと。

末節の枝葉がなければ幹も根も生きられません。末節の枝葉こそ大切、枝葉末節にこだわりたいとのこと。

(北原 秀介)

群馬の藪山 ⑩

中山 達也

【栗木立（ククリ岩）】（1355m）

2017年6月初旬 2.5万円 十石峠

栗木立より別名のククリ岩の方が知られている。

2.5万円に山名は無いが「群馬の山歩きベストガイド」に紹介されている碧岩、大岩の近くで、大体の場所は分かると思う。

ここでは碧岩への分岐から先の案内を書く。

三段の滝上に出ると碧岩、大岩へと、二子岩の案内がある。二子岩への案内に従い居合沢を南に向かう。地形図に破線が描かれているが踏み跡はほとんど無い。

950mコンター付近の滑滝までは平凡な沢で歩き易そうな所を行けば良い。

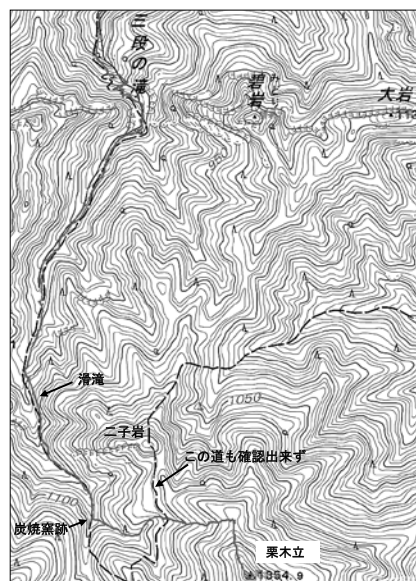
滑滝は右岸を高巻ける。二子岩西端を回り込むと、左から涸沢が流入するが直進する。

さらに100m程進むと流れのある沢が左から流入する。

この合流部に炭焼窯跡があった。この枝沢に入りしばらく登ると二股になる。

左（北東）の沢を選んだ。すぐ水流は無くなり、開けた明るい源頭で藪もほとんど無く歩き易い。

登り詰める
と栗木立北の稜線に出る。少し急登だが20分弱で三等三角点のある山頂に着く。雑木で展望は無い。古いひし形のブリキ板があり、辛うじて「ククリ岩」と読めた。三段の滝駐車場から登り約3時間～3時間半。



(注) 踏み跡が不明瞭、あるいはありません。地図、コンパスは必携です。

事務局だより

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、イベントの中止・延期が相次いでいます。今後の予定も不透明な状態です。見通しが立ち次第、会員メールでお知らせしていきます。

【主な活動・事業・イベント】……………
〈2020年9月〉

■健康登山塾第1回（9/12 赤城長七郎山）

関連記事 4 面

■第42回支部例会（9/16 前橋・中央公民館および Zoom）

■日本山岳会支部合同会議（9/26 東京およびZoom）
〈10月〉

■支部山行・尾瀬合宿（10/10～11 ロッジ長蔵泊・山行は上州武尊山と日光白根山） 関連記事 1・2 面

■支部役員会（10/14 Zoom）

■健康登山塾第2回（10/17 赤城地蔵岳）

関連記事 4 面

■県民登山大会（岳連主催 10/25 子持・小野子周辺）
〈11月〉

■木暮理太郎を偲ぶ会・碑前祭（木暮理太郎翁の足跡を偲ぶ会主催 11/3 太田）＊コロナ禍で中止

■健康登山塾第3回（11/7 赤城黒檜山）

関連記事 4 面

■第43回支部例会（11/18 前橋・中央公民館および Zoom）

■支部山行（11/28 筑波山）
〈12月〉

■日本山岳会年次晩餐会（12/5 東京）＊コロナ禍で中止

■健康登山塾第4回・修了式（12/12 高崎・観音山丘陵）

関連記事 4 面

■支部役員会・古道調査プロジェクト会議（12/16 Zoom）

【今後の主な予定】……………
〈2021年1月〉

■支部山行（1/1 初日の出山行・赤城長七郎山）

■第44回例会（1/20 Zoom）

〈2月〉

■支部役員会（2/17 場所未定）

〈3月〉

■第45回例会（3/17 場所未定）

■支部山行（3/20 赤城黒檜山）

〈4月〉

■関東四支部合同懇談会（4/17・18 榛名山）

■支部役員会（4/21 場所未定）

〈5月〉

■支部通常総会（5/19 場所未定）

【新入会員】……………

黛 智恵子 天野 洋和 村上 久子

日本山岳会群馬支部報 第14号 2021年1月20日

発行：公益社団法人 日本山岳会群馬支部

〒379-0109 安中市秋間みのりが丘5-169(北原方)

http://jac.or.jp/gunma/

発行者：北原 秀介 編集者：根井 康雄・萩原 哲

印刷：上武印刷株式会社